

岡安証券

～注目・外株銘柄～

(2023年11月)

【米国市場・20銘柄掲載】

(株価データ、株価指標は現地2023年10月30日現在)

<11月に追加>

- P1【防衛元請】 ゼネラル・ダイナミクス(GD)
- P2【半導体】 アプライド・マテリアルズ(AMAT)
- P3【エネルギー】 オキシデンタル・ペトロリアム(OXY)

<継続>

- P4【ハイテク主力】 アップル(AAPL)
- P5【ハイテク主力】 アルファベット(GOOG)
- P6【クラウド】 アマゾン・ドット・コム(AMZN)
- P7【クラウド】 マイクロソフト(MSFT)
- P8【ハイテク主力】 メタ・プラットフォームズ(META)
- P9【IT大手】 IBM(IBM)
- P10【SaaS系企業】 アドビ(ADBE)
- P11【SaaS系企業】 サービスナウ(NOW)
- P12【半導体設計】 ケイデンス・デザイン・システムズ(CDNS)
- P13【半導体】 エヌビディア(NVDA)
- P14【半導体】 アドバンスド・マイクロ・デバイセズ(AMD)
- P15【セキュリティ】 パロアルト・ネットワークス(PANW)
- P16【セキュリティ】 クラウドストライク・ホールディングス(CRWD)
- P17【電気自動車】 テスラ(TSLA)
- P18【民間旅客機】 ボーイング(BA)
- P19【レストラン】 マクドナルド(MCD)
- P20【製薬大手】 イーライ・リリー(LLY)

<追加>

- 防衛大手の連続増配企業
- 半導体製造装置世界大手
- バフェット銘柄で資源大手でCO2回収・貯留の先駆者

<継続>

- デジタルIT機器の設計・販売大手
- インターネット検索世界最大手
- インターネット小売世界最大手
- ソフトウェア世界最大手
- 米SNS運営世界最大手
- IT業界の老舗企業
- クリエイター向けソフトウェア企業
- 企業向けIT管理ソフトウェア企業
- 半導体・電子部品設計ツール(EDA)企業
- 画像処理半導体(GPU)開発企業
- 米ロジック半導体大手
- 次世代ファイアウォール機器専門大手
- エンドポイント・セキュリティの次世代リーダー的存在
- 米電気自動車(EV)大手
- 世界最大級の民間旅客機製造企業
- 世界最大のファストフードチェーン
- 米製薬大手

世界有数の防衛・宇宙複合企業 中東・ロシア等、地政学リスク高まる

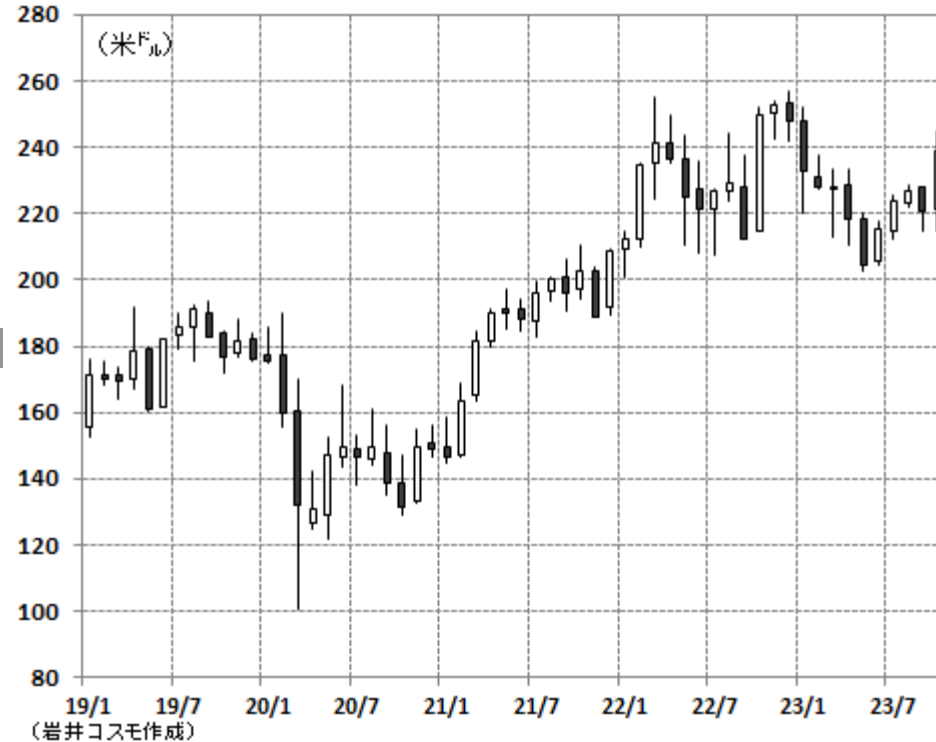
会社概要

世界有数の防衛・宇宙複合企業。航空/海洋システム/戦闘システム/情報機器の事業部門から成る。1899年設立の造船会社「エレクトリック・ボート」が源流。1900年に潜水艦を米海軍へ納入、1954年に世界初の原子力潜水艦「ノチラス」を製造した。M&Aを通じて現在は社員数10万人超を抱える総合防衛関連企業に変貌。毎年連続増配25年以上のS&P500配当貴族指数の構成銘柄に属する。

注目ポイント

□ **ビジネスジェットから原子力潜水艦、最強戦車まで製造**：現在の主力製品はビジネスジェットの「ガルフ・ストリーム」、次世代原子力潜水艦、M1エイブラムス戦車、スライカー装甲車等、民需用から軍需用まで多岐に亘り、各事業は長期契約に基づく。22年度の顧客別売上の内、米政府70%、米民間15%、米国外15%の構成、23年9月末時点の契約ベースの受注残高は1,329億ドルと3年分の売上高に相当する。

□ **世界の軍事費は過去最高更新**：露ウクライナ侵攻等を背景に22年の世界の軍事費は前年比4%増の2.24兆ドルと8年連続で増加、米国が全体の4割を占めた。今後も兵器需要は高まると見込まれる。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	238.98 (10/30)
52週高値(日付)	256.86 (22/12/02)
52週安値(日付)	202.64 (23/05/30)
時価総額	652億ドル 9兆7,238億円
株価変化率(%)	9.5 (過去6ヶ月間) -4.7 (過去1年間)

株価指標 (バリュエーション)	
実績PER	20.0 (倍)
株価売上高比率	1.6 (倍)
PBR	3.3 (倍)
税前配当利回り(%)	2.21 (直近年率)
配当成長率(%)	5.0 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	17.6 (%)
株式ベータ	0.77 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	38,469	1	4,163	1	3,257	3	11.55	4.76
2022/12	39,407	2	4,211	1	3,390	4	12.19	5.04

四半期業績

2022/Q3	9,975	—	1,098	—	902	—	3.26	1.26
2023/Q3	10,571	6	1,057	-4	836	-7	3.04	1.32

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

半導体製造装置の世界大手、新製品投入効果に期待

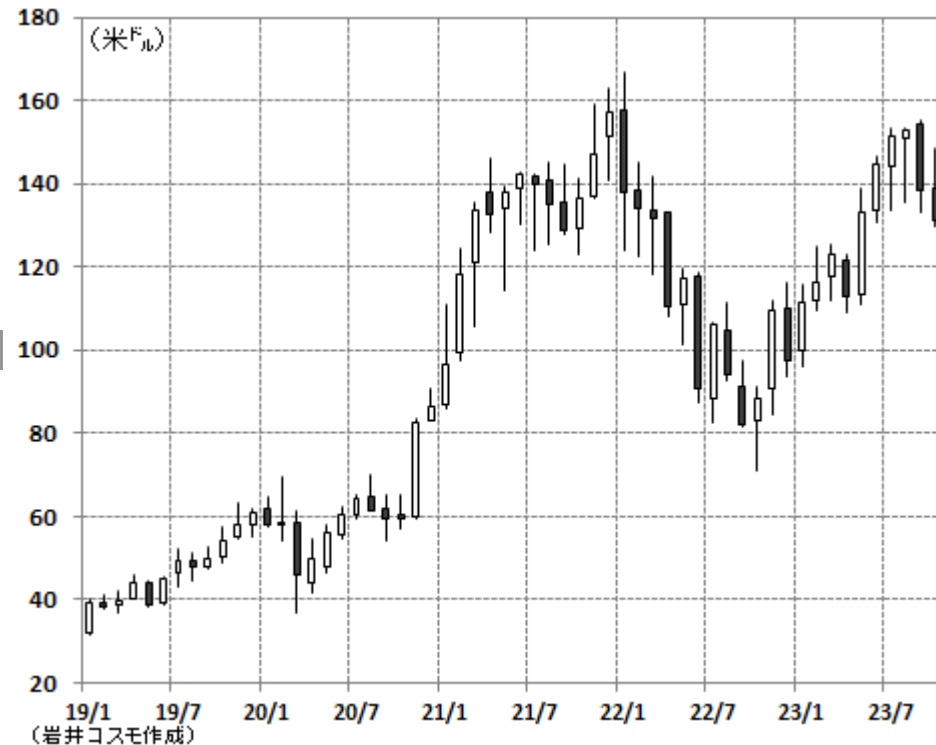
会社概要

半導体製造装置の世界大手。半導体やフラットパネルディスプレイ等の製造装置や関連ソフトウェアを製造・販売。中核事業部門である半導体製造装置部門はチップ製造の主要工程全般の装置を手掛ける。主要顧客は台湾TSMC、韓国サムスン電子、インテル等で直販体制を敷く。米国、ドイツ、台湾、シンガポール等に生産拠点、本社はカリフォルニア州サンタクララ、従業員数は約34,500名(23年7月末時点)。

注目ポイント

□ **来年以降の再拡大を見据える**：23年の半導体前工程の製造装置市場は前年好調の反動と半導体メモリーメーカーの投資抑制が響き、前年比1割の減少の870億ドルが見込まれるが、24年以降は市況回復と工場新設等を背景に堅調な回復が予想される。アプライドは同業他社と比較して半導体メモリー企業の依存度の低さと保守サービス強化で業績は足下底堅く推移する。

□ **新製品効果に期待**：ASMLのEUV露光装置による電子回路転写工程の回数を2回を1回に減らし、省電力・コスト削減に貢献する新製品「センチュラ・スカルプタ」が今後の成長ドライバーとして期待される。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	131.03 (10/30)
52週高値(日付)	155.23 (23/09/06)
52週安値(日付)	84.7 (22/11/03)
時価総額	1,096億ドル 16兆3,430億円
株価変化率(%)	15.9 (過去6ヶ月間) 46.0 (過去1年間)

株価指標 (バリュエーション)	
実績PER	16.8 (倍)
株価売上高比率	4.2 (倍)
PBR	7.3 (倍)
税前配当利回り(%)	0.98 (直近年率)
配当成長率(%)	16.0 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	47.4 (%)
株式ベータ	1.48 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/10	23,063	34	6,889	58	5,888	63	6.40	0.94
2022/10	25,785	12	7,788	13	6,525	11	7.44	1.02

四半期業績

2022/Q3	6,520	—	1,924	—	1,606	—	1.85	0.26
2023/Q3	6,425	-1	1,802	-6	1,560	-3	1.85	0.32

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

バフェット氏率いるバークシャー・サハウェイが筆頭株主のエネルギー会社

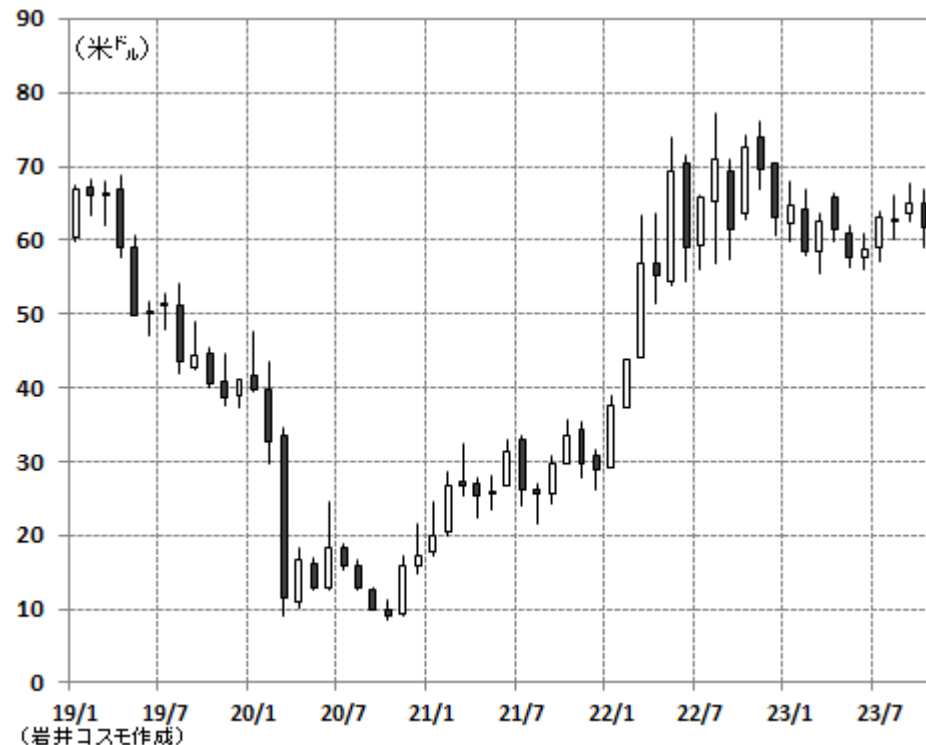
会社概要

1920年創業の米独立系エネルギー会社。石油・ガスの掘削・生産から川中・川下(販売)、化学まで展開し、石油メジャーに次ぐ規模。2019年に同業アナタルコ・ペトロリアムを買収した。22年末の石油・天然ガスの埋蔵量は38.2億石油換算バレル、うち米国(南部テキサス州や西部コロラド州、メキシコ湾)が29.7億バレル、米国外(オマーン、UAE、アルジェリア等)が8.5億バレル。S&P500指数構成銘柄。

注目ポイント

□ **バークシャーが筆頭株主**: 著名投資家バフェット氏率いるバークシャー・サハウェイは23年6月末時点で同社株の25.3%を持ち筆頭株主。19年のアナタルコ買収時にバークシャーが出資した経緯があり、近年買い増している。オシキデンタルは買収負担が軽減し現在株主還元を強化中。

□ **CO2の回収・貯留事業でリード**: 同社は火力発電所から排出される二酸化炭素(CO2)の回収・貯留(CCS)する部門を18年に立ち上げ、直接空気回収(DAC)で空気中からCO2を回収する工場も建設中で業界をリード。米国は税控除で支援しCCS導入を促すなど、世界のCCS市場は将来3兆~5兆ドル規模に拡大するとの予想もある。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	61.67 (10/30)
52週高値(日付)	76.1 (22/11/07)
52週安値(日付)	55.51 (23/03/15)
時価総額	546億ドル 8兆1,346億円
株価変化率(%)	0.2 (過去6ヶ月間) -14.2 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	10.3 (倍)
株価売上高比率	1.8 (倍)
PBR	2.8 (倍)
税前配当利回り(%)	1.17 (直近年率)
配当成長率(%)	67.5 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	31.5 (%)
株式ベータ	0.82 (対S&P500)

通期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	税引前利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	16,261	-25	3,705	赤転	-15,675	赤転	1.58	0.04
2022/12	26,314	62	14,117	黒転	1,522	黒転	12.40	0.52

四半期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	税引前利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/Q2	10,735	—	4,986	—	3,555	—	3.47	0.13
2023/Q2	6,731	-37	1,327	-72	605	-83	0.63	0.18

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

スマートフォン等のデジタル機器の設計・販売大手、高いブランド力が強み

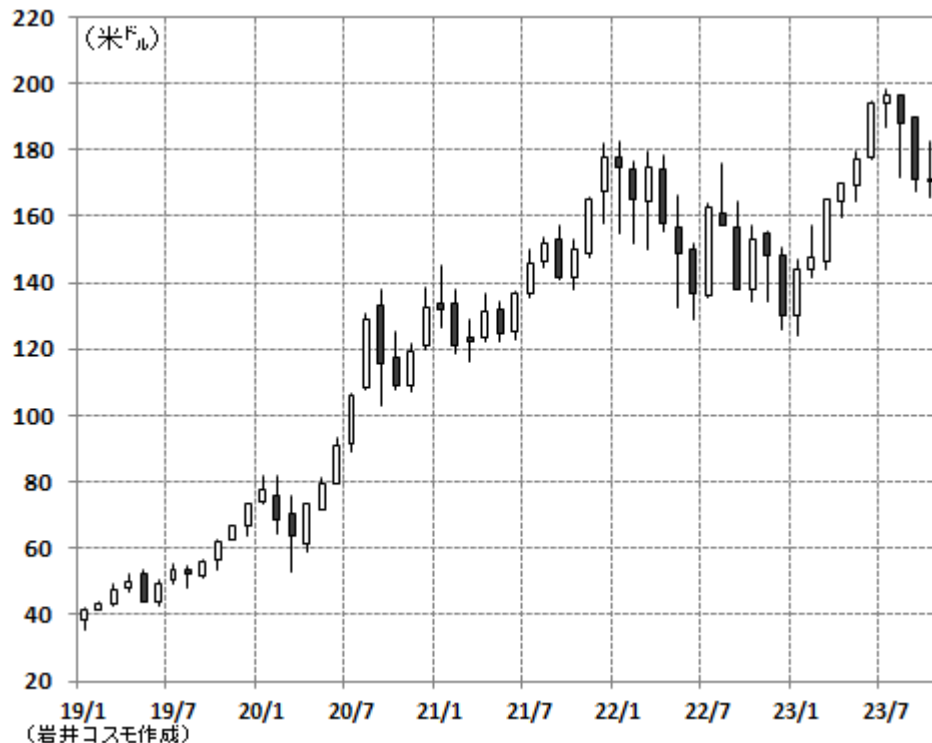
会社概要

スマートフォン(スマホ)「アイフォン」や、タブレットPC「アイパッド」などデジタルIT機器を設計・販売。1977年に設立。スティーブ・ジョブズ氏が1997年に復帰し、次々と革新性のある製品投入、再興を果たす。2011年のジョブズ氏没後は現クックCEO体制へ、12年以降は大規模な株主還元策を開始。独自の基本ソフト開発やアプリ販売等で他社と一線を画す。15年3月、NYダウ工業株平均に採用された。

注目ポイント

□**アイフォン15を9月22日発売開始**: 9月12日にアイフォン15の4機種と新型アップルウォッチ等を発表、22日より世界約40カ国で同時発売され、人気懸念された中国でも行列が確認された。アイフォン15は3年に一度の大型刷新に相当、また19日公開の最新基本ソフトは旧型「アイフォン10」以前が対象外となり、旧端末の買い替えを促される。米国では最上位機種のみ100ドル値上げとなった。

□**生成AIの組み込みを模索か**: アップルは独自の生成AIを開発中の模様だが、音楽配信でプレイリストを自動生成したり、文章作成アプリ「ペーシズ」などで生成AI機能を追加できるか模索中と報じられた。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	170.29 (10/30)
52週高値(日付)	198.22 (23/07/19)
52週安値(日付)	124.18 (23/01/03)
時価総額	2兆6,624億ドル 396兆9569億円
株価変化率(%)	0.4 (過去6ヶ月間) 9.3 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	28.6 (倍)
株価売上高比率	7.0 (倍)
PBR	44.2 (倍)
税前配当利回り(%)	0.56 (直近年率)
配当成長率(%)	4.4 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	160.1 (%)
株式ベータ	1.17 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/09	365,817	33	108,949	64	94,680	65	5.61	0.865
2022/09	394,328	8	119,437	10	99,803	5	6.11	0.900

四半期業績

2022/Q3	82,959	—	23,076	—	19,442	—	1.20	0.230
2023/Q3	81,797	-1	22,998	-0	19,881	2	1.26	0.240

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

インターネット検索サービス世界最大手、ネット広告以外の収益基盤拡大も進行

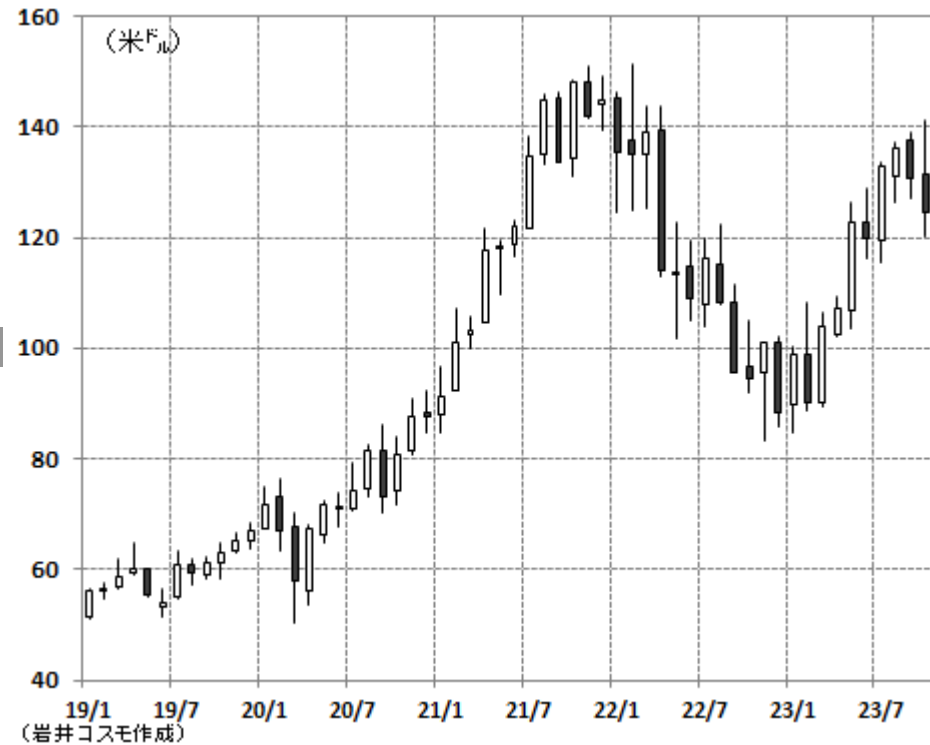
会社概要

ネット検索サービス世界最大手「グーグル」を傘下に置く持株会社。97年にサービス開始、04年8月上場。検索広告が主要収入源。革新力で定評があり、モバイル端末の無料基本ソフト「アンドロイド」は、同社の開発。また自動運転車などを社内で育成中。またアプリ・コンテンツ販売やクロームブック事業、クラウド型ビジネス向けソフトなどの事業展開も。本社はカリフォルニア州、従業員数は181,798人(23年6月末)。

注目ポイント

□ **広告事業が増収転換、AI新サービスの関心高く**：23年4-6月期決算では検索やYouTubeの広告が持ち直し、ネット広告収入が1-3月期の前年同期比マイナス成長から増収転換した。またクラウド事業も2四半期連続の営業黒字を達成、文書編集する生成AI「デュエットAI」の新サービスに顧客が高い関心を示すなどの反響があったとした。

□ **生成AIの業務用ツールでマイクロソフトに対抗**：グーグルは8月に文書・メール・スライド作成が出来る企業向け生成AIツール「デュエットAI」の概要を発表、料金は1人当り月額30ドルとマイクロソフトの「コパイロット」と同額設定にした。9月には自社の生成AIバドをGメールや動画共有のYouTubeに連動させて文書要約や検索を強化、広告作成ツールも提供予定。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	124.46 (10/30)
52週高値(日付)	141.22 (23/10/12)
52週安値(日付)	83.34 (22/11/03)
時価総額	1兆5,657億ドル 233兆4443億円
株価変化率(%)	15.9 (過去6ヶ月間) 29.3 (過去1年間)

株価指標 (バリュエーション)	
実績PER	23.1 (倍)
株価売上高比率	5.3 (倍)
PBR	5.7 (倍)
税前配当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	25.3 (%)
株式ベータ	1.16 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	257,637	41	78,714	91	76,033	89	5.61	0.00
2022/12	282,836	10	74,842	-5	59,972	-21	4.56	0.00

四半期業績

2022/Q3	69,092	—	17,135	—	13,910	—	1.06	0.00
2023/Q3	76,693	11	21,343	25	19,689	42	1.55	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

インターネット小売世界最大手、ネット通販とクラウド受託サービス事業の双方で競争優位

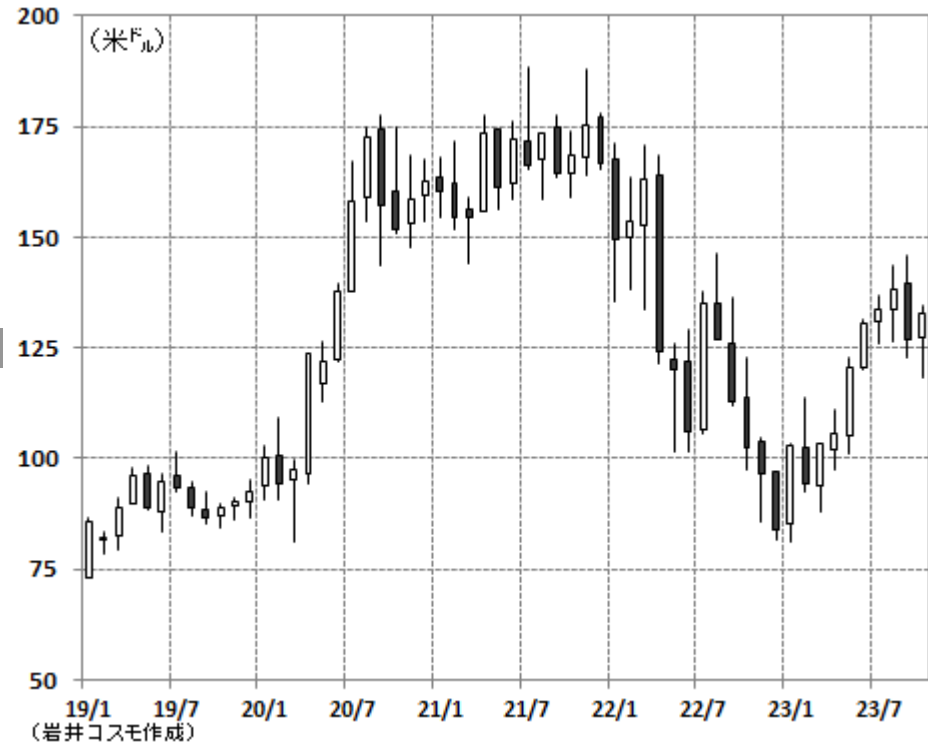
会社概要

インターネット小売世界最大手。ジェフ・ベゾス氏が設立、95年にサービス開始。書籍中心の取扱いから急速に品揃えを拡充。電子書籍端末「キンドルファイア」シリーズ等を投入、新市場開拓に意欲的。世界で個人有料会員は2億人を超え、動画や音楽の配信サービスを提供、法人向けのデータセンター利用サービスでも存在感が高い。近年はAI家電のスピーカー型のエコが世界中でヒット。本社はワシントン州シアトル。

注目ポイント

□ **アレクサに生成AIを搭載へ**: アマゾンは9月20日、自社の音声アシスタントのアレクサに生成AI技術を幅広く搭載して人間らしく自然に複雑な指示にも対応できるようになると発表。米国で24年にかけて段階的にソフト更新の度に高度化する計画。2014年の初代の音声スピーカーエコの発売から8年、身近なAI製品が一段と進化する見通し。

□ **倉庫にヒト型ロボット導入で効率化**: ヒト型ロボット「デイジット」とAI搭載の仕分け機等で構成される新システム「セコイア」を10月にメディア向けに披露、注文処理時間が最大25%短縮され、在庫・管理に係る時間も最大75%迅速化されるとのこと、一段の差別化要因となる。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	132.71 (10/30)
52週高値(日付)	145.85 (23/09/14)
52週安値(日付)	81.44 (23/01/06)
時価総額	1兆3,714億ドル 204兆4801億円
株価変化率(%)	25.9 (過去6ヶ月間) 28.3 (過去1年間)

株価指標 (バリュエーション)	
実績PER	62.7 (倍)
株価売上高比率	2.5 (倍)
PBR	7.5 (倍)
税前配当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	12.5 (%)
株式ベータ	1.29 (対S&P500)

通期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	469,822	22	24,879	9	33,364	56	3.24	0.00
2022/12	513,983	9	12,248	-51	-2,722	赤転	-0.27	0.00

四半期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/Q3	127,101	—	2,525	—	2,872	—	0.28	0.00
2023/Q3	143,083	13	11,188	343	9,879	244	0.94	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

ソフトウェア世界最大手、生成AI技術実装・クラウド事業で成長回帰へ

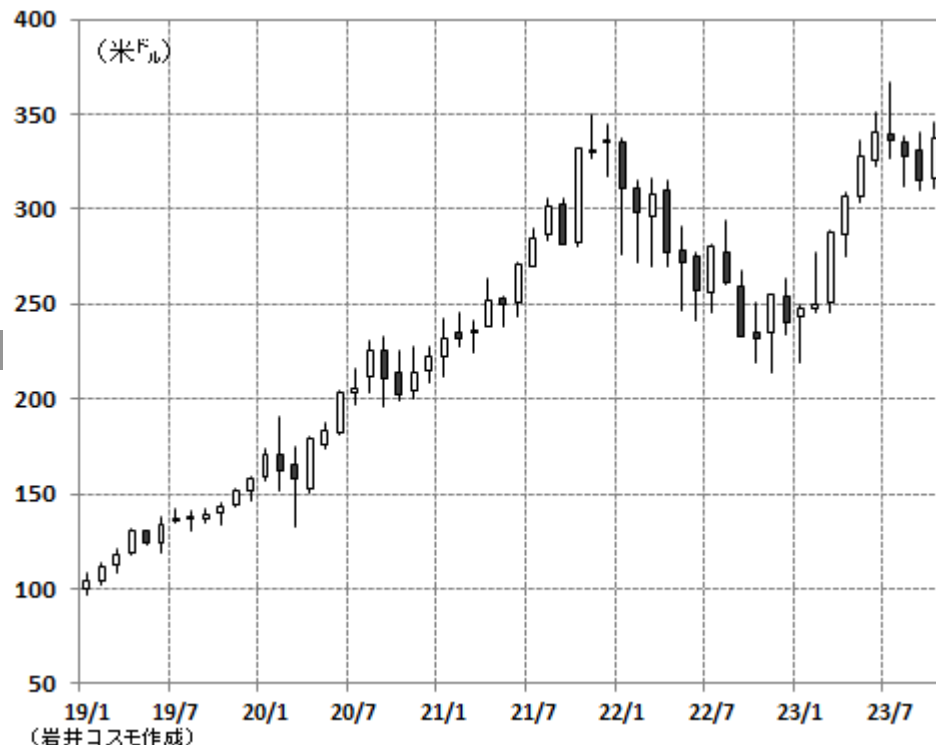
会社概要

ソフトウェア世界最大手。1975年創業。80～90年代にウィンドウズ(OS:基本ソフト)とオフィス(ワード、エクセル等)で急成長。ほかゲームやネット広告等も手掛け、企業から消費者向けまで幅広く事業を展開。2016年12月にビジネス向けSNSサイトの「リンクイン」を買収。2014年に就任したナデラCEOのもと、デバイス・サービス戦略から生産性やモバイル、クラウドを重視した経営に軸足を移している。

注目ポイント

□ **クラウド事業の拡大が奏功**: マイクロソフトはクラウドインフラ市場(IaaS)で首位アマゾンウェブサービス(AWS)に次ぐ位置にあり、2強体制を構築。特にワードやエクセル等クラウド版の「オフィス365」やデータ受託管理の「アジュール」、リンクインなどが成長けん引役である。

□ **「ウィンドウズ95以来の革新」生成AIが実装へ**: 9月26日更新の「ウィンドウズ11」にはAI支援機能「コパイロット」が追加され商用サービスとして提供が始まった。同社は出資するオープンAIの基盤技術をフル活用してAIに指示してパソコン操作を代行させる。付加価値が高いとして企業向けにはサブスクリプション料として高額月額30ドルを設定した。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	337.31 (10/30)
52週高値(日付)	366.77 (23/07/18)
52週安値(日付)	213.46 (22/11/04)
時価総額	2兆5,070億ドル 373兆7902億円
株価変化率(%)	9.8 (過去6ヶ月間) 43.0 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	32.4 (倍)
株価売上高比率	11.5 (倍)
PBR	11.4 (倍)
税前配当利回り(%)	0.89 (直近年率)
配当成長率(%)	9.7 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	39.1 (%)
株式ベータ	1.10 (対S&P500)

通期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/06	198,270	18	83,383	19	72,738	19	9.65	2.48
2023/06	211,915	7	88,523	6	72,361	-1	9.68	2.72

四半期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2023/Q1	50,122	—	21,518	—	17,556	—	2.35	0.68
2024/Q1	56,517	13	26,895	25	22,291	27	2.99	0.75

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

メタ・プラットフォームズ(META)

38億人のユーザーを抱える世界最大のSNS運営会社

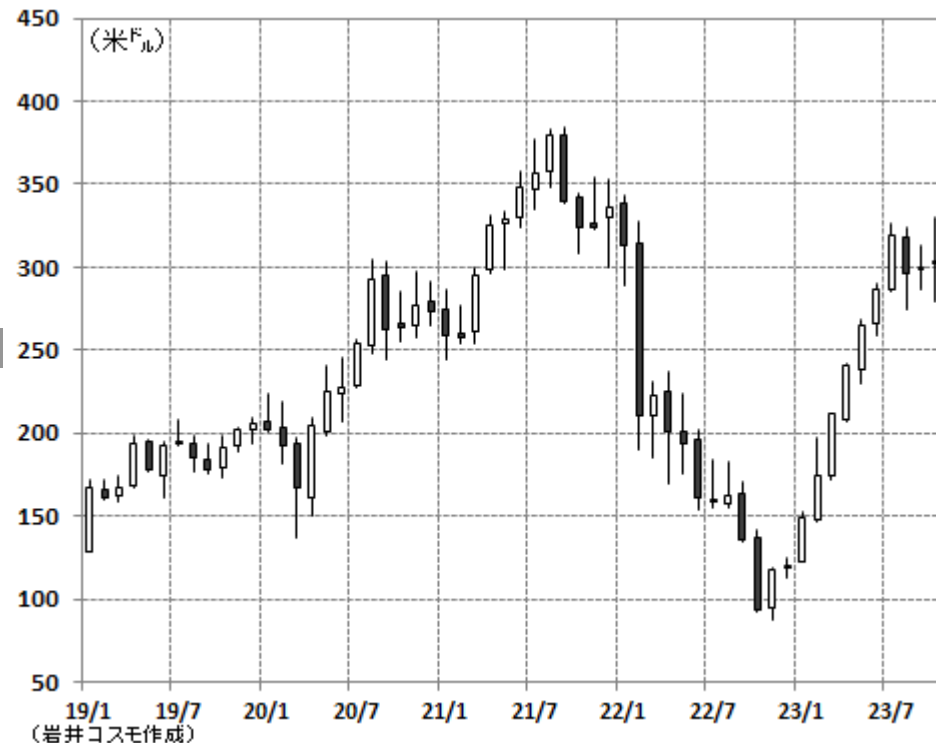
会社概要

世界最大のSNS運営会社。2004年設立、会員数(月間稼動、インスタグラムなども含む)は全世界で38.8億人(23年4-6月期)。マーク・ザッカーバーグ氏が大学在学時代に立ち上げ、サクセス・ストーリーは映画化された。21年に社名を「フェイスブック」から現在の「メタ・プラットフォームズ」に変更し、メタバースに注力する姿勢を鮮明にした。本社はカリフォルニア州メンロパーク、従業員数は約71,469人(23年6月末時点)。

注目ポイント

□ **インスタなど自社SNSに生成AI導入へ**：メタは9月27日に写真共有アプリのインスタグラムやワッツアップ、メッセンジャーに對話型の生成AI「メタAI」を導入すると発表。自社の大規模言語モデルLlama(ラマ)2が基盤で質問に回答する。メタAI以外に28種類のAIキャラクターがSNS上にプロフィールが公開され、性格に基づいた対応をするとした。

□ **短編動画「リールズ」の収益化前進**：短編動画のリールズは、FBとインスタの利用時間の半分以上を占め、計画より早く現金収支上の中立水準まで改善、Xに類似のスレッズは開始から3カ月経過して月間稼働利用者は1億人弱で推移している。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	302.66 (10/30)
52週高値(日付)	330.5 (23/10/12)
52週安値(日付)	88.1 (22/11/04)
時価総額	7,778億ドル 115兆9692億円
株価変化率(%)	25.9 (過去6ヶ月間) 205.1 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	19.8 (倍)
株価売上高比率	6.2 (倍)
PBR	5.4 (倍)
税前配当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	22.3 (%)
株式ベータ	1.22 (対S&P500)

通期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	117,929	37	46,753	43	39,370	35	13.77	0.00
2022/12	116,609	-1	28,944	-38	23,200	-41	8.59	0.00

四半期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/Q3	27,714	—	5,664	—	4,395	—	1.64	0.00
2023/Q3	34,146	23	13,748	143	11,583	164	4.39	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

分社化で組織再編したIT(情報技術)業界の老舗 融合型クラウド、ブロックチェーンで巻き返しを図る

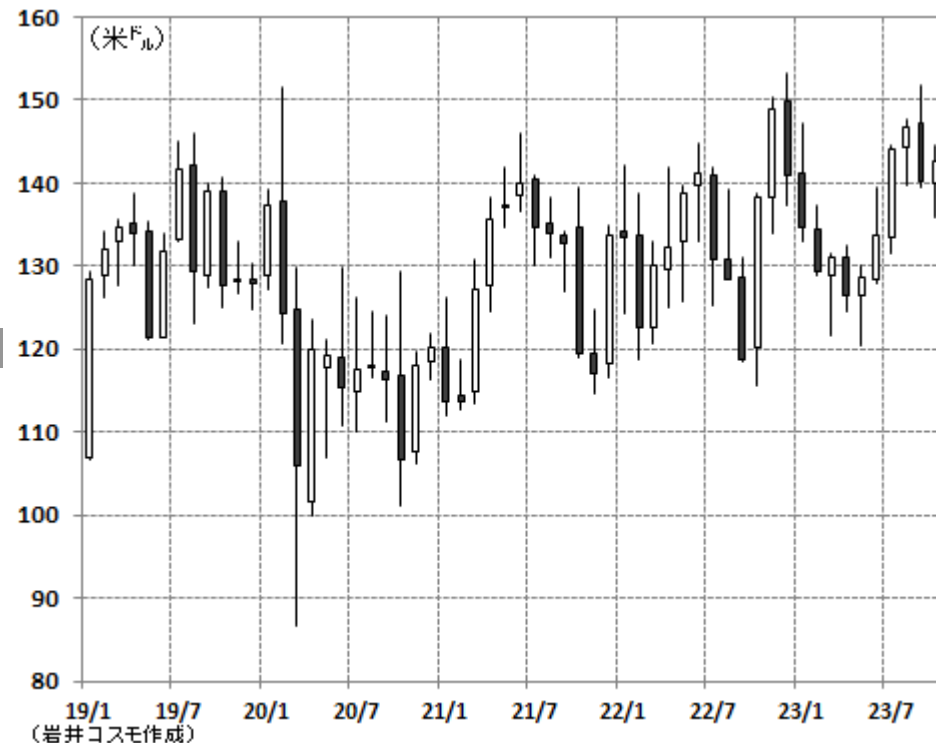
会社概要

1910年設立。老舗企業でコンピュータサービス大手。米国特許取得の年間件数では28年連続の首位。1960-70年代にメインフレーム(大型汎用コンピュータ)事業で一時代を築いた。近年は「ビッグデータ」分析やAIスパコン「ワトソン」で業界の新潮流を生んだ。他方、クラウド化ではアマゾン等に後塵を拝した。NYダウ工業株平均及び、25年以上連続増配企業からなるS&P500配当貴族指数の構成銘柄。

注目ポイント

□ **組織再編進展、ハイブリッドクラウド強化**: 2019年にオープンソースソフト大手のレッドハットを買収、21年11月にはITインフラサービス事業を分社化、オンプレミス(自社運用)とクラウドの融合型の「ハイブリッドクラウド」と人工知能(AI)等の分野に経営資源のシフトを図った。5月にAIに代替される業務の採用を停止すると発表し、経費節減にも尽力する。

□ **進化したAI「ワトソンX」**: IBMは法人向けの人工知能(AI)「ワトソンX」を5月に発表、従来「ワトソン」より処理能力や使い勝手を向上させた。8月にマイクロソフト・アジュールと、10月にはAWS(アマゾン)という、2強クラウドと提携し、「ワトソンX」の販売力を強化した。



株価チャート(2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	142.63 (10/30)
52週高値(日付)	153.16 (22/12/13)
52週安値(日付)	120.55 (23/05/11)
時価総額	1,299億ドル 19兆3,736億円
株価変化率(%)	12.8 (過去6ヶ月間) 3.0 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	15.3 (倍)
株価売上高比率	2.1 (倍)
PBR	5.6 (倍)
税引前配当利回り(%)	4.66 (直近年率)
配当成長率(%)	0.6 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	32.1 (%)
株式ベータ	0.77 (対S&P500)

通期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	税引前利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	57,350	—	4,837	—	5,743	—	6.35	6.55
2022/12	60,530	6	1,156	-76	1,639	-71	1.80	6.59

四半期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	税引前利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/Q3	14,107	—	-4,501	—	-3,196	—	-3.54	1.65
2023/Q3	14,752	5	1,873	黒転	1,704	黒転	1.84	1.66

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

グラフィックデザインやマーケティング分野に強いソフトウェア企業、画像生成AIを強化

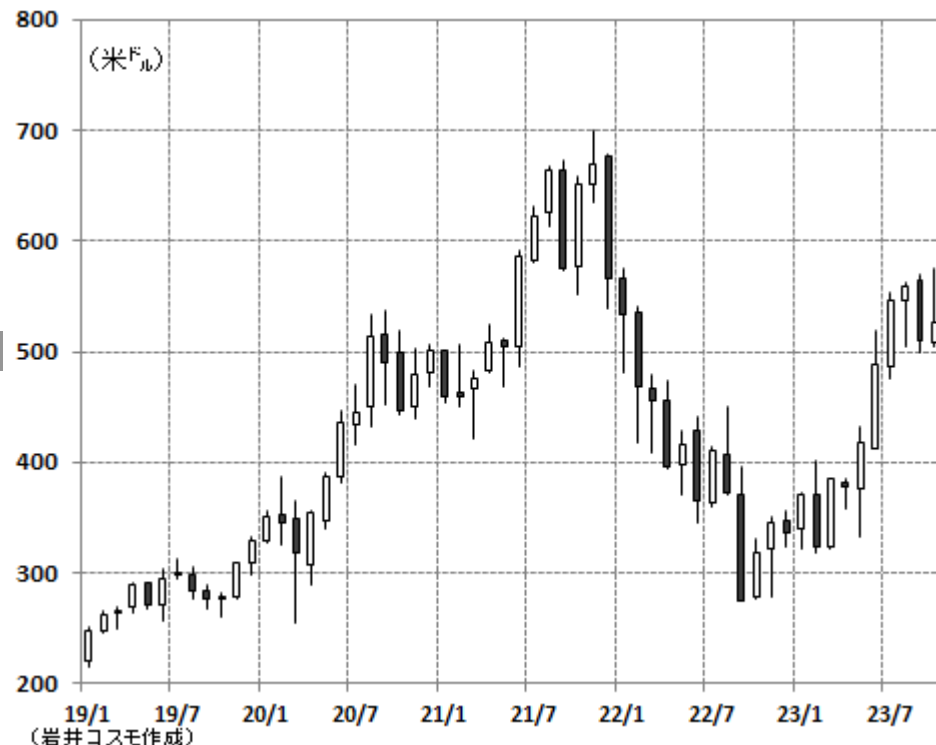
会社概要

画像加工/文書編集/マーケティング・ソフトの大手。身近な例では文書ソフト「PDFファイル」が有名。画像加工ソフト「フォトショップ」、「イラストレーター」等のクリエイター向けのソフトが売上の6割を占め、収益の柱。2009年にサイト閲覧解析のオムチュアの買収を機にデジタルマーケティング分野を強化、19年1月にマーケティング自動化ソフトのマルケトを取得。本社はカリフォルニア州サンセ、従業員数は30,078名(23年5月末時点)。

注目ポイント

□ **クラウドビジネス転換の成功企業**: アドビは他社に先駆け2012年に従来のパッケージ販売からサブスクリプション(継続課金)制へ転換を図り現在、関連収入が9割を占め、営業利益率のV字回復も達成し成功した企業として知られる。

□ **画像生成AI「ファイアフライ」**: 簡単な文章を元に画像等を作成する生成AI「ファイアフライ」を9月に商用提供開始、10月には次世代を披露。描きたいものを文章で打ち込めば数秒で画像が出来上がる。試験公開以来30億超の作品が生成され、機能は各製品の最上位版に既に追加、11月より欧米ではサブスク料金が約1割値上げされる。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	526.94 (10/30)
52週高値(日付)	574.32 (23/10/12)
52週安値(日付)	278.23 (22/11/04)
時価総額	2,399億ドル 35兆7,714億円
株価変化率(%)	39.6 (過去6ヶ月間) 61.8 (過去1年間)

株価指標 (バリュエーション)	
実績PER	46.6 (倍)
株価売上高比率	12.8 (倍)
PBR	15.2 (倍)
税前提当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	34.0 (%)
株式ベータ	1.49 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/11	15,785	23	5,802	37	4,822	-8	10.02	0.00
2022/11	17,606	12	6,098	5	4,756	-1	10.10	0.00

四半期業績

2022/Q3	4,433	—	1,484	—	1,136	—	2.42	0.00
2023/Q3	4,890	10	1,697	14	1,403	24	3.05	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

導入企業の内勤業務の効率化・費用削減に貢献し高成長する企業

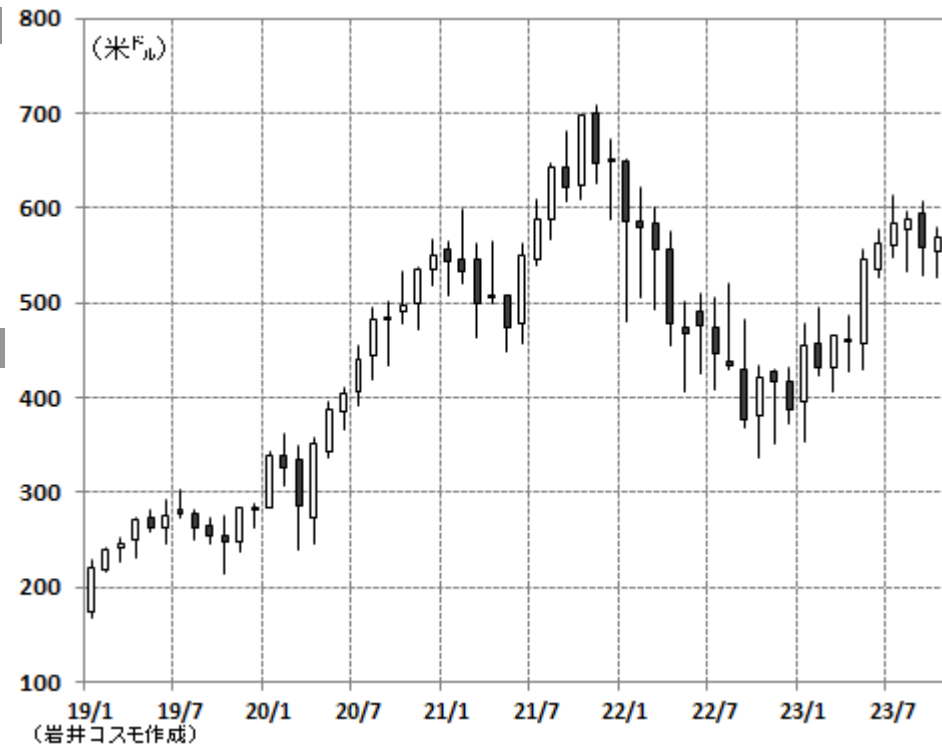
会社概要

米クラウド専門のソフトウェア企業。企業向けの社内ワークフローの自動化、業務プロセスの標準化を行う、社名と同じ「サービスナウ」というソフトウェアをクラウド形式で販売、顧客数は7,700社超。地域別売上(22年度)は北米65%、欧州等25%、アジア/太平洋が10%。2004年設立、12年6月にニューヨーク上場。本社はカリフォルニア州サンタクララ、従業員数は21,377名(23年6月末)。2019年11月にS&P500指数に採用。

注目ポイント

□ **日本の大手も採用する社内効率化クラウド**：主力の業務効率改善ソフト「ワークフロークラウド」を中心に販売、社内ワークフローの自動化を通じて社内の部署間のやり取りの遅滞や情報共有上の課題を解決し、より効率的な業務の遂行が可能となる。クラウドのメリットを活かし、初期投資負担が軽く、経費節減と社内の効率化が同時に図られ、パナソニック、ヤマハ、NTTデータなど、日本大手企業の導入実績がある。

□ **エヌビディアと協業**：サービスナウとエヌビディアは協業し、企業の社内システムに生成AI(人工知能)を導入しやすくする。サービスナウのクラウドサービスにエヌビディアの対話型AIサービスの開発基盤等を活用する。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	568.54 (10/30)
52週高値(日付)	614 (23/07/19)
52週安値(日付)	351.85 (22/11/07)
時価総額	1,166億ドル 17兆3,777億円
株価変化率(%)	23.8 (過去6ヶ月間) 35.2 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	166.4 (倍)
株価売上高比率	13.7 (倍)
PBR	16.2 (倍)
税前配当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	27.1 (%)
株式ベータ	1.46 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	5,896	30	257	29	230	94	1.13	0.00
2022/12	7,245	23	355	38	325	41	1.60	0.00

四半期業績

2022/Q3	1,831	—	91	—	80	—	0.39	0.00
2023/Q3	2,288	25	231	154	242	203	1.17	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

ケイデンス・デザイン・システムズ(CDNS)

半導体・集積回路の設計支援ソフトの世界大手

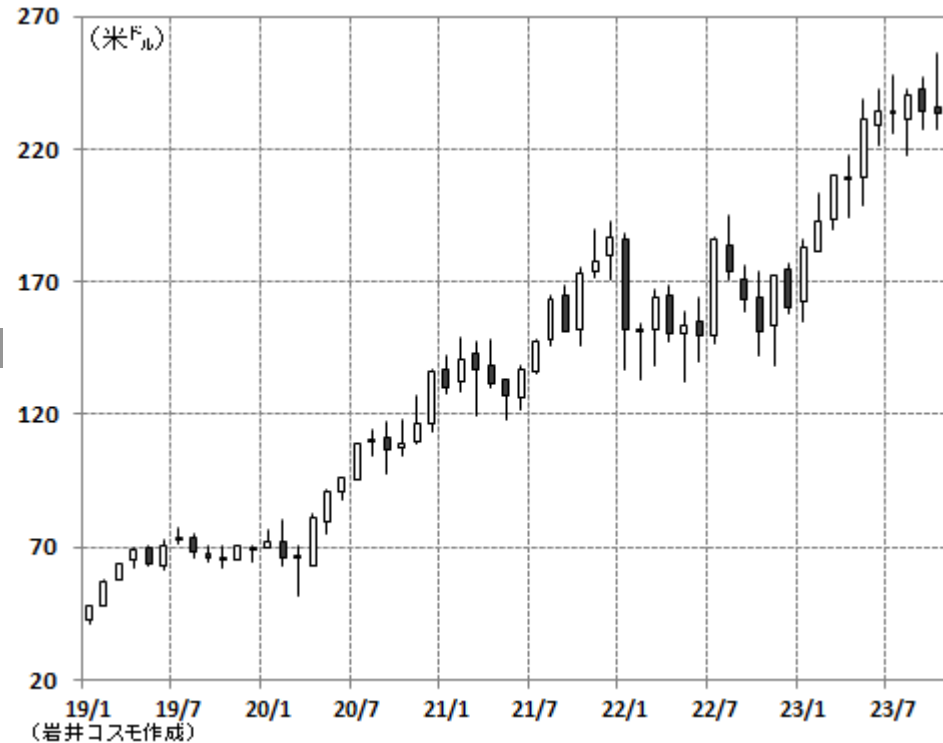
会社概要

世界中の電子システム企業及び半導体企業に小型で複雑な半導体・集積回路、ICチップ及び電子デバイスの設計ができるEDA(半導体設計の自動化ツール)製品を開発、提供。同社の半導体設計ツールは製品を市場投入するまでの時間を短縮させ、設計・開発・製造コストを削減させることに貢献。エヌビディアやAMD、台湾TSMCや米IT大手各社が同社EDAツールを使用、S&P500指数構成銘柄。

注目ポイント

□ **半導体メーカーの名黒子役、ライバルの少ないEDA業界**: 顧客は半導体企業や電子部品の開発企業。主要製品EDAの需要は顧客先の開発・投資活動の盛況振りが左右する。EDA業界ではライバルのシプスや独シメンスEDA(旧メンターグラフィクス)と同社の3社しかなく、寡占状態。専門分野を棲み分けしつつ、高い収益性を確保。

□ **半導体規制の影響は軽微**: 10月に導入の対中AIチップの輸出規制の影響について同社はチップの製造に直接関与せず、設計プロセスに携わっているため、大きな影響を与えることはないと言及。顧客層が地理的に多様であることも影響の緩和に役立つだろうとした。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	233.72 (10/30)
52週高値(日付)	255.74 (23/10/12)
52週安値(日付)	138.78 (22/11/04)
時価総額	636億ドル 9兆4,807億円
株価変化率(%)	11.6 (過去6ヶ月間) 54.3 (過去1年間)

株価指標 (バリュエーション)	
実績PER	65.6 (倍)
株価売上高比率	16.1 (倍)
PBR	20.4 (倍)
税前配当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	32.9 (%)
株式ベータ	1.19 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	2,988	11	779	21	696	18	2.50	0.00
2022/12	3,562	19	1,074	38	849	22	3.09	0.00

四半期業績

2022/Q3	903	—	261	—	186	—	0.68	0.00
2023/Q3	1,023	13	299	15	254	37	0.93	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

生成AIに欠かせない超高性能半導体を開発、AIインフラの一翼を担う

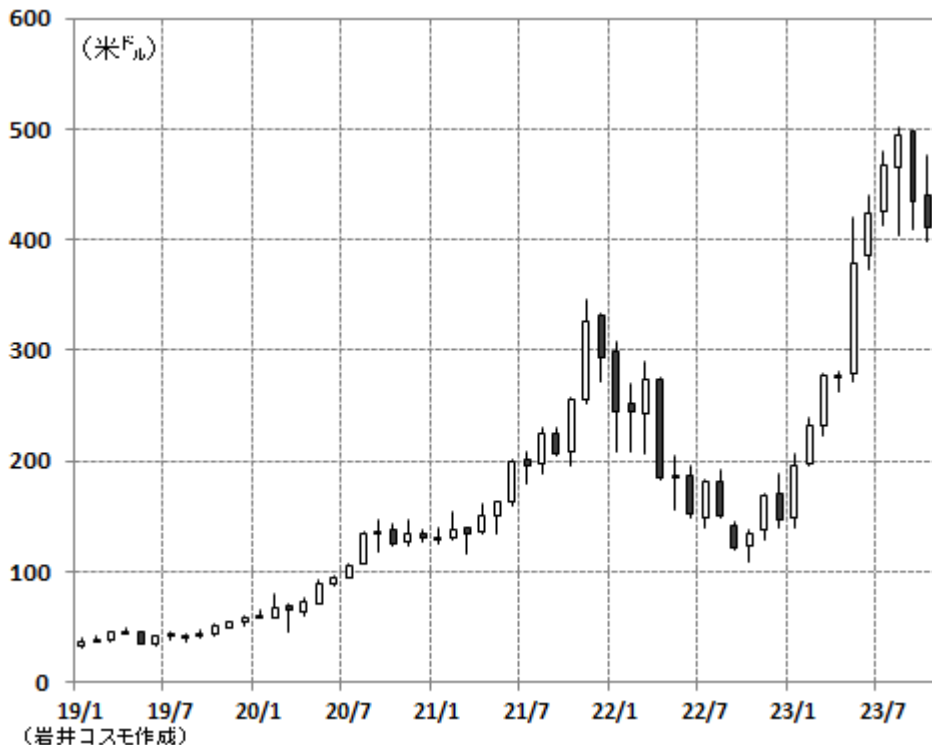
会社概要

1993年設立の米国の半導体メカ。コンピュータのグラフィックス処理や演算処理の高速化を主な目的とするGPU(画像処理半導体)を設計・開発する。自社で製造を行なわないファブレスメカで台湾セミコンダクタや韓国サムスン電子に製造を委託。用途別売上構成は、AIを含むデータセンター向けが56%、ゲーム市場向けが34%、視覚化技術に関するプロ向けが6%、自動車向けが3%、OEM&IPが2%(23年1月期)。

注目ポイント

□「AI」の計算処理に同社GPUが活躍：マイクロソフトやアマゾン、アルファベット、メタ等のIT大手を中心に、人工知能の「機械学習(大量データを用いて自ら学ぶ)」の計算処理に同社半導体を利用。コア(処理装置)を多数連結した高性能・最高級GPUの販売単価は数万ドルものもあるが、AIインフラの必須アイテムとなっている。

□対中国輸出規制強化の対象に：10月17日に米政府は軍事利用制限を目的にAI半導体の対中国等への輸出規制の強化を発表、同社が中国輸出仕様に設計したAI半導体「A800」や「H800」などが規制対象となる見込み。エヌビディアは「世界的な需要を考慮すると同社業績に短期的に有意な影響はない」と回答した。



株価チャート(2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	411.61 (10/30)
52週高値(日付)	502.3 (23/08/24)
52週安値(日付)	129.56 (22/11/03)
時価総額	10,167億ドル 1,51兆5,865億円
株価変化率(%)	48.3 (過去6ヶ月間) 197.5 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	95.8 (倍)
株価売上高比率	31.1 (倍)
PBR	37.0 (倍)
税前配当利回り(%)	0.04 (直近年率)
配当成長率(%)	0.0 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	40.2 (%)
株式ベータ	1.63 (対S&P500)

通期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/01	26,914	61	10,041	122	9,752	125	3.85	0.16
2023/01	26,974	0	4,224	-58	4,368	-55	1.74	0.16

四半期業績								
決算期	売上高	前同比	営業利益	前同比	当期利益	前同比	1株利益	配当
2023/Q2	6,704	—	499	—	656	—	0.26	0.04
2024/Q2	13,507	101	6,800	1,263	6,188	843	2.48	0.04

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

インテルやエヌビディアのライバル半導体メーカー、市場シェア獲得に期待

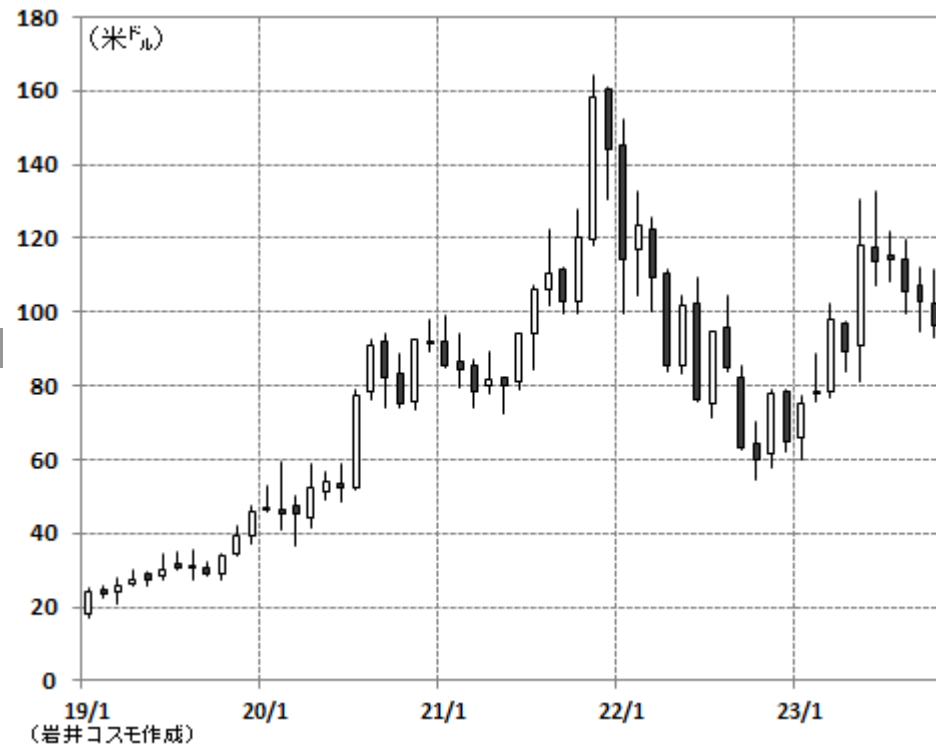
会社概要

1969年設立の老舗半導体メカ。現在は演算処理(CPU)・画像処理用半導体(GPU)、チップセットの開発・販売専門企業。2006年にGPU大手のATI社を買収、2011年に画像処理機能統合型半導体APUを市場投入。APUは最新「Xbox シリーズX/S」、「プレイステーション5」等に採用され、据置型ゲーム機市場で存在感。22年にはプログラマブル半導体に強みを持つ同業のザイリンクスを買収した。

注目ポイント

□ **インテルやエヌビディアに劣後も巻き返し目指す**：AMDはインテルのCPUやエヌビディアのGPUに対抗製品を提供できる稀有な存在。ただPCやサーバ向けCPUではインテルの方がシェアで勝り、GPUの分野でもエヌビディアに後塵を拝す。ただ近年は優秀な半導体設計者を他社から引き戻し、インテルやエヌビディアの牙城の切り崩しを画策する。

□ **高性能AI用半導体を年後半投入**：AMDは生成AIにも対応する高性能GPU「MI300X」を23年第4四半期に投入する計画。9月初旬にCEOは今年後半のデータセンター事業の好調が見込まれる事、中国を引続き重要視し、売上の約20-25%を占めている事に言及した。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	96.18 (10/30)
52週高値(日付)	132.8 (23/06/13)
52週安値(日付)	58.06 (22/11/03)
時価総額	1,554億ドル 23兆1,694億円
株価変化率(%)	7.6 (過去6ヶ月間) 55.1 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	879.1 (倍)
株価売上高比率	7.1 (倍)
PBR	2.8 (倍)
税前配当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	-0.0 (%)
株式ベータ	1.46 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	16,434	68	3,648	166	3,162	27	2.57	0.00
2022/12	23,601	44	1,264	-65	1,320	-58	0.84	0.00

四半期業績

2022/Q2	6,550	—	526	—	447	—	0.27	0.00
2023/Q2	5,359	-18	-20	赤転	27	-94	0.02	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

次世代ファイアウォール機器専門大手、統合型セキュリティ企業として存在感増す

会社概要

2005年設立の「次世代ファイアウォール」機器の専門大手。高度なソフトウェアが組み込まれた製品は、インターネット・セキュリティ上の「ファイアウォール(防火壁)」となり、外部ネットワークからの攻撃や不正なアクセスに対して自分達のネットワークやコンピュータを防御する役割を担う。次世代のファイアウォールの特徴は、包括的なセキュリティ対策を高速処理で行う点にある。本社はカリフォルニア州サンタクララ。

注目ポイント

□**統合型セキュリティ企業としての強み**: 全世界で6万団体超の顧客を抱え、日本ではインターネットイニシアティブ/サイバーエージェント/KDDI/東京大学等に導入実績あり。外からの攻撃を守るファイアウォールや最終端末防御、クラウド保護など幅広く網羅する統合型サービスが強み。無駄なIT支出抑制とセキュリティ環境の構築を両立したい企業ニーズを取り込み、従来型セキュリティ企業から市場シェアを奪取してきた。

□**収益性改善を見据える中計目標**: 現在の中計では23-26年度の調整後1株利益・年平均成長率20%以上、26年度の調整後営業利益率28-29%(23年度:24%)、同利益率の長期目標を「30%台前半~半ば」とし、収益性向上を中心的な財務目標に据えている。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ

株価(米ドル)	238.55 (10/30)
52週高値(日付)	265.9 (23/10/13)
52週安値(日付)	132.22 (23/01/12)
時価総額	741億ドル 11兆0,550億円
株価変化率(%)	30.7 (過去6ヶ月間) 39.4 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)

実績PER	182.2 (倍)
株価売上高比率	10.5 (倍)
PBR	42.1 (倍)
税前提当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	44.9 (%)
株式ベータ	1.11 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/07	5,502	29	-189	赤継	-267	赤継	-0.90	0.00
2023/07	6,893	25	387	黒転	440	黒転	1.28	0.00

四半期業績

2022/Q4	1,551	—	15	—	3	—	0.01	0.00
2023/Q4	1,953	26	79	5.1倍	228	69倍	0.64	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

クラウドストライク・ホールディングス(CRWD)

高成長のエンドポイント・セキュリティ企業

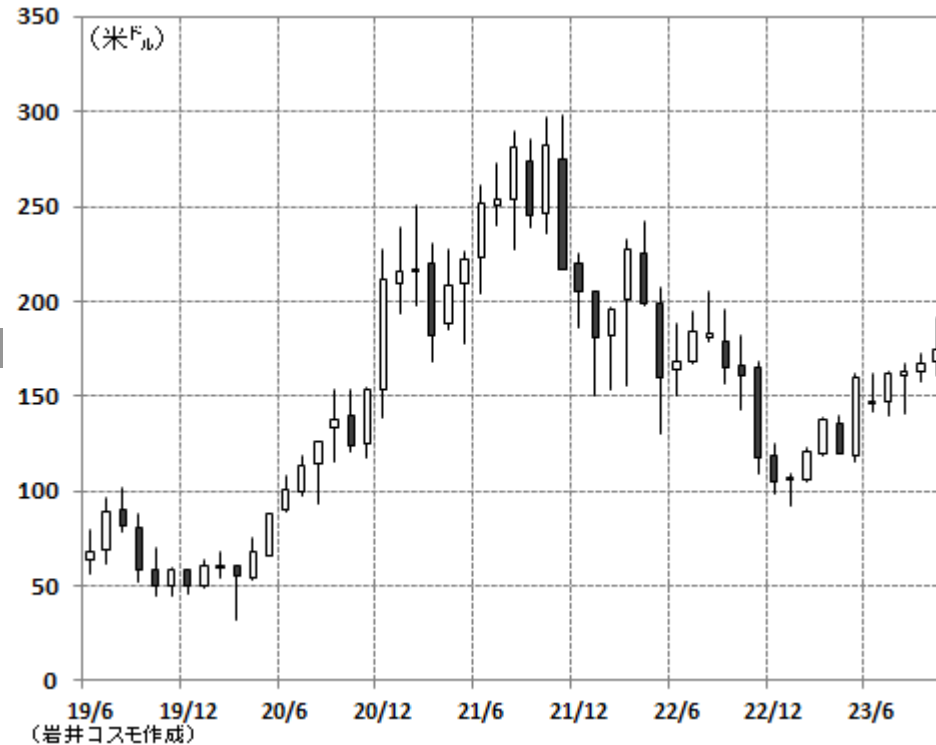
会社概要

2011年設立の次世代サイバ-セキュリティ企業。創業者のジョージ・カツ最高経営責任者(CEO)は、米セキュリティ大手のマカフィーの幹部を経て、同僚のドミニク・アルペロビッチ氏と同社を立ちあげる。前々回の大統領選前の16年4月、米民主党中央委員会に対するロシア系グループのサイバ-攻撃を発見し、一躍有名となる。人工知能(AI)とクラウドサービスの活用し、サイバ-攻撃に対処する技術やサービスを提供する。

注目ポイント

□ **エンドポイント・セキュリティに強み**： 同社はエンドポイント防御プラットフォーム(EPP)分野を代表するセキュリティ企業。顧客が使用するモバイル機器やサーバ-などのエンドユーザー機器を保護、100%クラウド型の基本設計であり、クラウドを使用しない従来型に対して競争優位性を持つ。異なるIT環境にも対応可能で迅速に設定できる強みも持つ。

□ **収益性改善を明示**： 9月の投資家説明会で今後3-5カ年度の中計目標を示し、調整後サブスク粗利益率82-85%(従来目標比4%分改善)、調整後営業利益率28-32%(同9%分改善)、純現金収支・売上比34-38%(同5%分改善)と収益性改善を重視する見込み。



株価チャート(上場来・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	174.61 (10/30)
52週高値(日付)	191.98 (23/10/19)
52週安値(日付)	92.25 (23/01/10)
時価総額	417億ドル 6兆2,167億円
株価変化率(%)	45.4 (過去6ヶ月間) 6.7 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	— (倍)
株価売上高比率	15.6 (倍)
PBR	22.7 (倍)
税前配当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	#N/A (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	-6.1 (%)
株式ベータ	1.31 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/01	1,452	66	-143	赤継	-235	赤継	-1.03	0.00
2023/01	2,241	54	-190	赤継	-183	赤継	-0.79	0.00

四半期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2023/Q2	535	—	-48	—	-49	—	-0.21	0.00
2024/Q2	732	37	-15	赤継	8	黒転	0.03	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

従来の概念を覆す電気自動車メーカー最大手

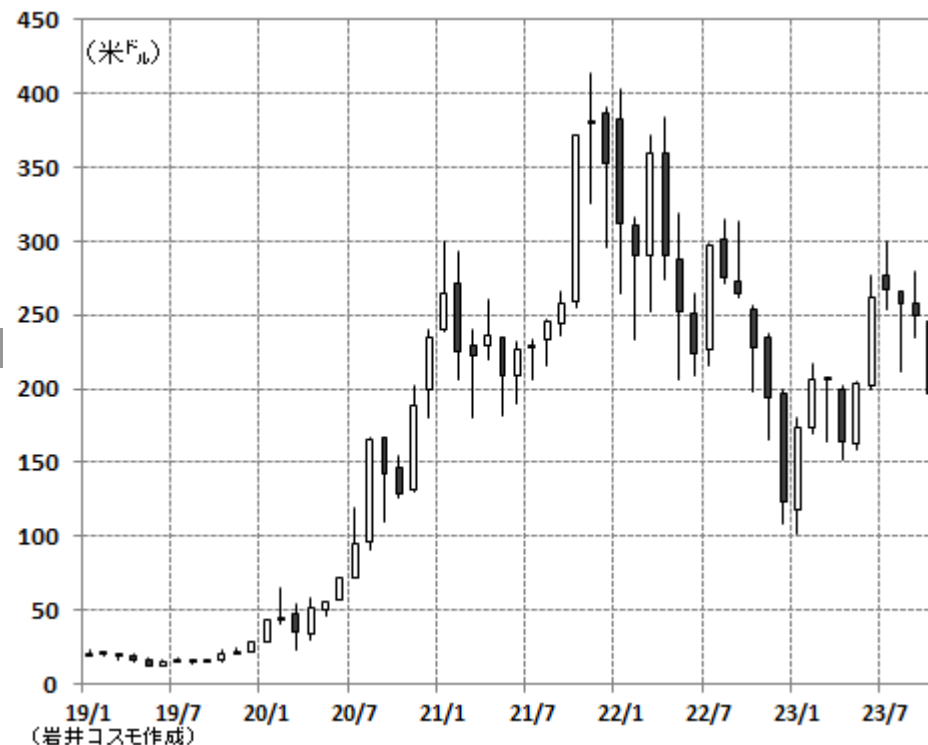
会社概要

2003年創業の世界最大の電気自動車(EV)の専門メーカ。高速・長距離走行が可能なEVの大量生産・開発を行う。2017年2月に社名を「テスラ・モーターズ」から「テスラ」に変更。2020年12月にテスラ株はS&P500種指数に採用された。最高経営責任者(CEO)のイーロン・マスク氏は宇宙開発ベンチャーのスペースXのCEOを兼任するなど、世界を代表するカスマ経営者として知られる。

注目ポイント

□**トヨタも北米充電規格はテスラ式に**：23年前半にGMやフォードがこぞって急速充電設備利用を目的にテスラが開発した充電規格「NACS」の採用を決め、テスラ式の北米充電規格の業界標準化が加速した。日本の自動車メーカーも日産、ホンダに続き、トヨタ自動車も10月に北米充電規格はテスラ式にすることを発表、テスラの優位性が増した。

□**新モデルを11月末に納車開始**：量産型ピックアップトラックの「サイバートラック」を11月末に納車開始すると発表。年25万台の出荷目標は25年頃に達成する見込みだが、現金収支のプラス寄与には1年から1年半かかりそうと、イーロン・マスク氏が7-9月決算時に明らかにした。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	197.36 (10/30)
52週高値(日付)	299.29 (23/07/19)
52週安値(日付)	101.83 (23/01/06)
時価総額	6,274億ドル 93兆5441億円
株価変化率(%)	20.1 (過去6ヶ月間) -13.6 (過去1年間)

株価指標 (バリュエーション)	
実績PER	63.3 (倍)
株価売上高比率	6.5 (倍)
PBR	11.7 (倍)
税前配当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	23.1 (%)
株式ベータ	1.64 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	53,823	71	6,523	227	5,519	665	1.63	0.00
2022/12	81,462	51	13,656	109	12,556	128	3.62	0.00

四半期業績

2022/Q3	21,454	—	3,688	—	3,292	—	0.95	0.00
2023/Q3	23,350	9	1,764	-52	1,853	-44	0.53	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

航空機製造の世界大手、民間旅客機部門が復活の兆し

会社概要

世界最大の民間機及び軍用機メーカー。回転翼航空機、電子及び防衛システム、ミサイル、ロケットエンジン、衛星、衛星打ち上げ機等の幅広い製品を世界90カ国以上に提供。主力の民間航空機部門は小型機「737MAX」が2度の墜落事故を起こし、出荷・運航を停止していたが、米連邦航空局(FAA)の承認を経て、20年12月に運航を再開。NYダウ工業株平均採用銘柄。

注目ポイント

□ **サービス部門が航空業界の復活の恩恵享受**: ボーイングは世界各地の航空キャリアの保有する航空機を保守を請け負う「グローバルサービス」部門を強化中だが、旅客サービス業のコロナ禍の回復するに伴い収益拡大。他部門と比べて安定収益源として貢献している。

□ **部品調達の遅延も収益目標は変えず**: サプライヤーの製造ミスで737の胴体隔壁部品の調達が遅れ、7-9月期決算で737の生産目標を下方修正したが、通期の現金収支目標は据え置いた。防衛・宇宙や保守サービス部門でカバーするという。2025-26年頃に純現金収支の黒字・年100億ドルの計画も再確認した。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	182.35 (10/30)
52週高値(日付)	243.02 (23/08/01)
52週安値(日付)	139.53 (22/10/31)
時価総額	1,103億ドル 16兆4,483億円
株価変化率(%)	-11.8 (過去6ヶ月間) 26.8 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	— (倍)
株価売上高比率	1.5 (倍)
PBR	— (倍)
税前提当利回り(%)	無配 (直近年率)
配当成長率(%)	— (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	— (%)
株式ベータ	1.09 (対S&P500)

通期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	62,286	7	-2,902	赤継	-4,202	赤継	-7.15	0.00
2022/12	66,608	7	-3,547	赤継	-4,935	赤継	-8.30	0.00

四半期業績								
決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2022/Q3	15,956	—	-2,972	—	-3,275	—	-5.49	0.00
2023/Q3	18,104	13	-808	赤継	-1,636	赤継	-2.70	0.00

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

社名 (ティッカー)

マクドナルド(MCD)

上場市場

ニューヨーク

セクター

レストラン

連続増配実績は40年以上、改革を続けるファストフードチェーン

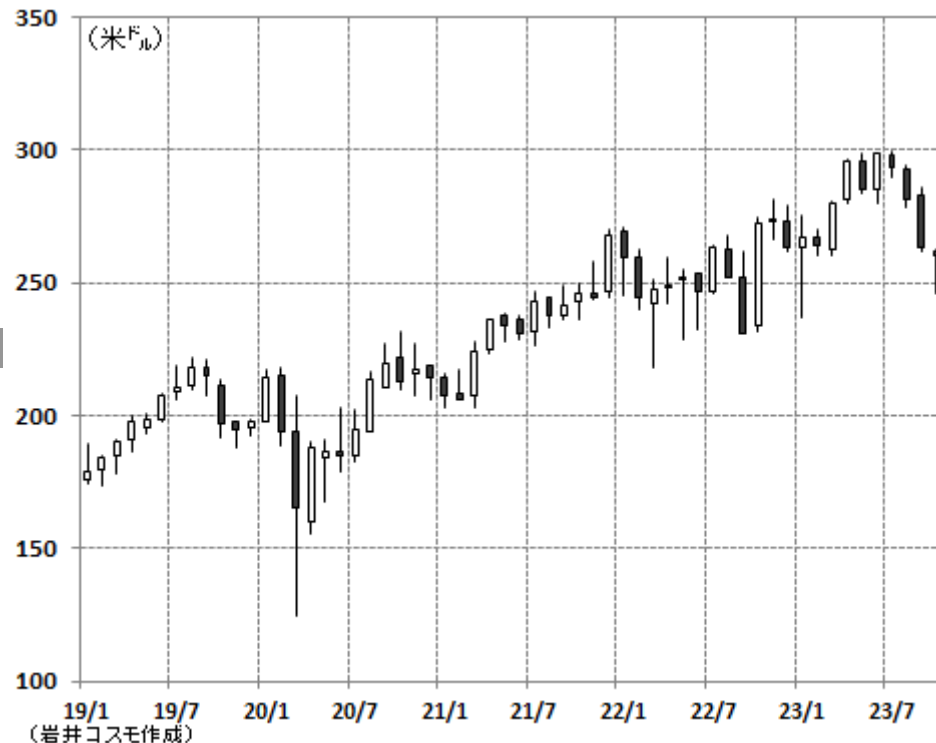
会社概要

世界展開するハンバーガー・レストラン・チェーン大手。全ての店舗で均一性・高品質の確保を目的とし、「マクドナルド」はグローバルブランドとして広く浸透している。フランチャイズ店舗、関連会社の店舗も含めた運営店舗は、世界100ヶ国以上で40,000店舗超に及ぶ。1976年に初めて配当を実施して以来、毎年増配している。本社はイリノイ州・シカゴ、従業員数は約150,000人(22年12月末時点)。

注目ポイント

□ **長年の増配実績を持つ配当貴族銘柄**：これまで46年連続の増配実績を持ち、マクドナルド株はS&P500配当貴族指数にも属す。例年10月が増配発表時期で過去5年間の年平均増配率は+9%。全世界店舗の約95%がフランチャイズ店舗となり、フランチャイズ化は一段落、モバイル注文や宅配サービスの新戦略を世界規模で推し進め、コロナ禍では新戦略が奏功して顧客ニーズを掴んだ。

□ **米国ではほぼ30年ぶりにフランチャイズフィーを引き上げ**：一部米メディア報道では米国で24年1月1日以降、売上に係るフランチャイズ加盟店手数料率を30年ぶりに値上げし4%から5%とする予定。但し現加盟店は従来通りで新規フランチャイズ加盟業者等が適用対象となる。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	260.15 (10/30)
52週高値(日付)	299.35 (23/07/21)
52週安値(日付)	236.77 (23/01/24)
時価総額	1,896億ドル 28兆2,675億円
株価変化率(%)	-12.0 (過去6ヶ月間) -5.2 (過去1年間)

株価指標(バリュエーション)	
実績PER	22.6 (倍)
株価売上高比率	7.6 (倍)
PBR	- (倍)
税前提当利回り(%)	2.57 (直近年率)
配当成長率(%)	10.1 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	- (%)
株式ベータ	0.75 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	営業利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	23,223	21	10,356	41	7,545	60	10.04	5.25
2022/12	23,183	-0	9,371	-10	6,177	-18	8.33	5.66

四半期業績

2022/Q3	5,872	—	2,764	—	1,982	—	2.68	1.38
2023/Q3	6,692	14	3,208	15	2,317	17	3.17	1.52

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

インシュリンを世界初で開発した企業、肥満症やアルツハイマー型認知症治療薬に注目高まる

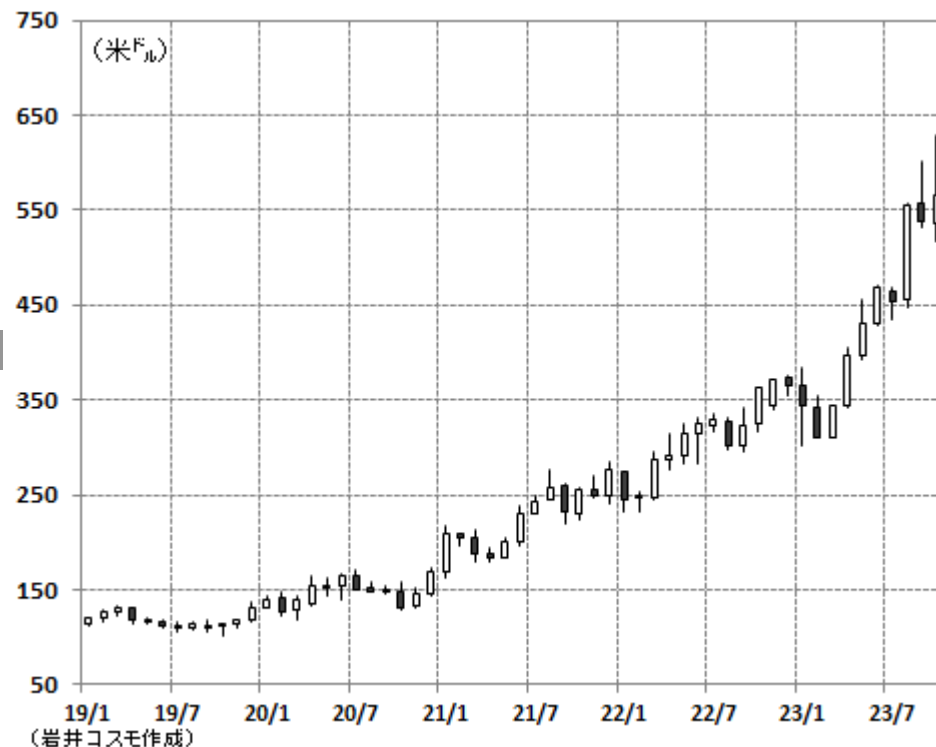
会社概要

米国製薬大手。インシュリンの実用化に世界で初めて成功した企業であり、神経系・内分泌・がん・循環器系の各分野で大型薬を販売。2019年2月にがん治療薬の開発のロキソ・オンコロジーを買収、同年3月に動物医薬品事業の分離を完了。2021年1月に神経変性疾患の遺伝子治療薬を手がけるプリヴェイル・セラピューティクスを取得した。1876年創業、本社はインディア州インディアナポリス。

注目ポイント

□ **肥満症やアルツハイマー症の新薬候補に脚光**：同社は競合よりも将来の大型新薬候補が充実。ひとつは既に2型糖尿病薬として新薬承認された「マンジャロ(一般名チルゼパチド)」の肥満症への適応拡大、もう一つがアルツハイマー型認知症の治療薬「ドナネマブ(FDA申請中)」であり、来期以降の売上への本格貢献が期待される。

□ **「マンジャロ」の肥満症治療結果**：同社は糖尿病ではなく肥満症患者の「マンジャロ」の後期の治療の詳細結果を10月に発表、12週間の生活習慣指導(平均体重減少率は6.9%)の後、72週間の服用期間において体重を追加で平均21.1%減らした。



株価チャート (2019年以降・月足)

株価データ	
株価(米ドル)	565.71 (10/30)
52週高値(日付)	629.94 (23/10/13)
52週安値(日付)	302.14 (23/01/24)
時価総額	5,370億ドル 80兆0,705億円
株価変化率(%)	42.9 (過去6ヶ月間) 57.2 (過去1年間)

株価指標 (バリュエーション)	
実績PER	69.3 (倍)
株価売上高比率	17.3 (倍)
PBR	48.5 (倍)
税前配当利回り(%)	0.80 (直近年率)
配当成長率(%)	15.3 (過去1年間)
株主資本利益率(ROE)	66.3 (%)
株式ベータ	0.69 (対S&P500)

通期業績

決算期	売上高 (百万ドル)	前同比 (%)	税引前利益 (百万ドル)	前同比 (%)	当期利益 (百万ドル)	前同比 (%)	1株利益 (ドル)	配当 (ドル)
2021/12	28,318	15	6,156	-15	5,582	-10	6.12	3.40
2022/12	28,541	1	6,806	11	6,245	12	6.90	3.92

四半期業績

2022/Q2	6,488	—	1,091	—	953	—	1.05	0.98
2023/Q2	8,312	28	2,089	91	1,763	85	1.95	1.13

(会社資料等各種資料より岩井コスモ証券作成)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

株式投資に関するご留意事項

◆手数料等について

■国内株式

- ・国内株式の売買には、約定代金に対して最大1.265%（税込）の委託手数料が必要となります。
※委託手数料が2,750円に満たない場合は2,750円

■外国株式

- ・国内取次手数料

約定代金が5.0万円以下の場合	約定代金の16.5%（税込）
約定代金が5.0万円超50万円以下の場合	8,250円（税込）
約定代金が50万円超の場合	最大で約定代金の1.1% + 2,750円（税込）

- ・現地諸費用：外国取引にかかる現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書上でその金額等をあらかじめ記載することはできません。
- ・「外国証券取引口座」を開設されていない場合は、口座開設が必要となります。

■新規公開株式

- ・新規公開株式を購入される場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

◆主なリスクについて

株価変動リスク	政治・経済、社会情勢等の変化により、株式相場等が変動し損失を被るおそれがあります。
新規公開株式にかかるリスク	新規公開株式は、国内外の事業会社が発行する株式であり、金融商品取引所への上場後は、株式相場の変動や当該事業会社等の信用状況に対応して価格が変動すること等により、損失が生じるおそれがあります。
信用リスク	有価証券等の発行者の信用・財務状況などの変化等により、価格等が下落したり、投資元本を回収できなくなったりすることで、損失を被るおそれがあります。
流動性リスク	流動性の悪化または流通市場の混乱により、損失を被るおそれがあります。
為替変動リスク	外国為替相場の変動等により、受取金額が増減し損失を被るおそれがあります。

当社が取扱う商品等は、上記リスク等により損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をお読みください。

本資料の情報の一部は、岩井コスモ証券株式会社より取得しております。